

出題分析		
試験時間 100 分	配点 200 点*	大問数 3 題
分量 (昨年比較) [減少 同程度 増加]		難易度変化 (昨年比較) [易化 同程度 難化]
【概評】 同志社大学の英語の大問構成にはここ数年大きな変化は見られない。I・IIは長文読解で英文の分量はどちらも3ページ程度、設問としては、空所補充、同義選択、内容一致等があり、下線部和訳がI・IIどちらかにある。大問IIIは会話文で、空所補充と1~2行程度の和文英訳が定番である。大問I~IIIを通じて、英文自体および設問の難度は標準的であるが、英文のボリュームからすると、精度だけでなく相当のスピードが要求される。		

※生命医科学部は配点を100点満点に換算する。

設問別講評			
問題	出題分野・テーマ	設問内容・解答のポイント	難易度
I	長文読解 「ヒトは生まれながらにして人を助ける」 ○語数：882語 (昨年)1017語	人間は赤ちゃんの頃から周りの人を助ける、しかもそのような行動が極めて高い割合で見られたことを示す研究についての文章。Cの内容把握(U)のbuild upon ~は「(さらに発展するために) ~を土台にする」というような意味。them が these behaviorsを指し「赤ちゃんのこうした(社会的な)行動をさらに伸ばす」となる。Eの内容一致の選択肢2 Unclear actions...は、第2段落のApproximations of helping...の言い換えである。	標準
II	長文読解 「心理的に豊かな生き方」 ○語数：860語 (昨年)848語	人生においては「幸福」や「意義」よりも「心理的な豊かさ」を追求すべきであると説いた文章。Dの語句整序は、rich life is one filled with では、one が life を指す不定代名詞、これを filled with が後置修飾しており、(お)に入る that は主格の関係代名詞。Fの和訳は、low one's sight で「目標を下げる」という熟語的な意味があるので、これを用いた訳でも良いだろう。	標準
III	会話文 「ジム・デビュー」 ○語数：374語 (昨年)605語	初めてジムを利用する人物と経験者である友人の二人の会話。空所補充の(f)は、空所の後続くAlexの二つの発言で“push”と“pull”のそれぞれについて説明されていることがヒント。和文英訳の「筋肉」は、基本的に muscles と複数形にする。	標準

設問構成 (設問数・形式・内容)												
大問 番号	設問数	選択式						記述式				
		空所 補充	同義 選択	内容 把握	語句 整序	内容 一致	その他	和訳	英訳	自由 英作	内容 (理由) 説明	その他
I	5	3	9	3	1	3/8						
II	6	3	8	3	1	3/8		1				
III	2	8							1			

※「選択式」および「記述式」の欄の数値は、各設問内の小問数を表す。ただし、内容一致については、正答数/選択肢数を表している。

合格のための学習法
同志社大学の入試で高得点を取るには、何よりもまず強靱な英文読解力が必要だ。そのためには早い時期から、基本となる単語・熟語を身につけると同時に、英文を読むための文法を身につけることが重要だ。1文1文の文法構造を理解しながら、雰囲気ではなく、確固たる理解に基づいて読めるように、毎日こつこつ英文を読み込もう。最初はスピーディーに読めなくてもよいので、ゆっくり読みすすめること。正確な読解ができるようになれば、速さは自ずとついてくるものだ。英語の勉強時間の大半は英文読解にかけるべきだが、その一方で地道に単語や熟語を増やすことと、英作文対策に取り組むことも忘れないようにしよう。